

## (5) 東海



東海地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鋳工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(   は上方に変更、   は下方に変更)。

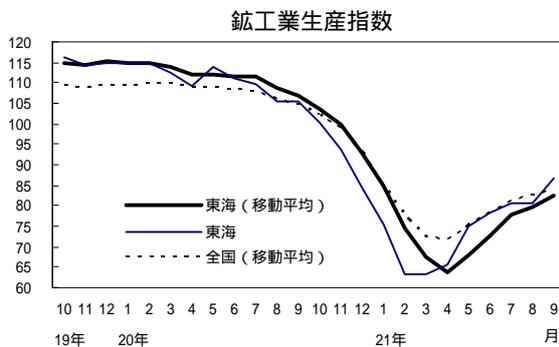
### 前回調査からの主要変更点

|      | 前回(平成21年8月) | 今回(平成21年11月)          |  |
|------|-------------|-----------------------|--|
| 景況判断 | 下げ止まっている    | 持ち直しの動き               |  |
| 個人消費 | 緩やかに減少      | おおむね横ばい               |  |
| 雇用情勢 | 極めて急速に悪化    | 厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある |  |

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鋳工業生産は持ち直している。

輸送機械は、乗用車や自動車部品を中心に増加している。一般機械は、金属工作機械は低調に推移しているものの、機械工具や動力伝導装置が増加していることから、増加している。電子部品・デバイスは、半導体素子・集積回路やテレビ向け液晶素子が増加している。プラスチック製品は、自動車産業向けに、プラスチック製工業用製品、フィルム・シート・合成皮革が増加している。化学は、無機薬品・顔料・触媒、プラスチックを中心に増加している。



- (備考) 1. 17年=100、季節調整値。  
2. 全国及び東海の太線は後方3か月移動平均。

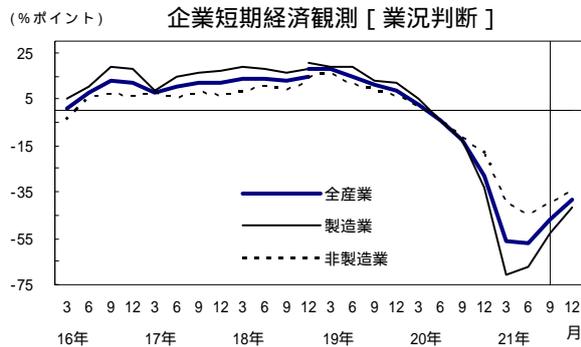
#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

|           | 付加価値<br>ウェイト | 生産        |           | 出荷        | 在庫        |
|-----------|--------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|           |              | 4~6<br>月期 | 7~9<br>月期 | 7~9<br>月期 | 7~9<br>月期 |
| 輸送機械      | 37.5         | 14.8      | 22.0      | 22.2      | 10.1      |
| 一般機械      | 12.7         | 25.0      | 12.6      | 13.0      | 15.2      |
| 電子部品・デバイス | 6.8          | 38.6      | 11.3      | 14.9      | 0.3       |
| プラスチック製品  | 5.4          | 14.6      | 7.9       | 9.5       | 1.7       |
| 化学        | 5.0          | 3.8       | 3.7       | 2.2       | 8.1       |
| 鋳工業       | 100.0        | 8.2       | 13.5      | 12.7      | 4.6       |

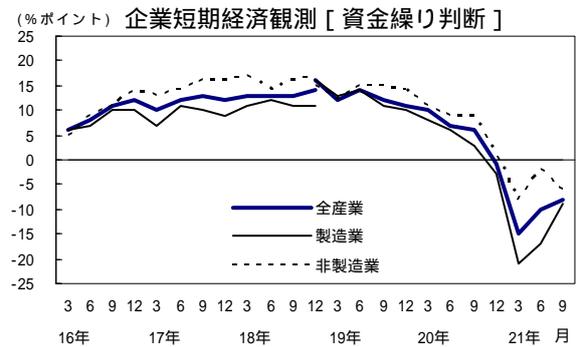
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 生産指数は東海、出荷、在庫指数は中部。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

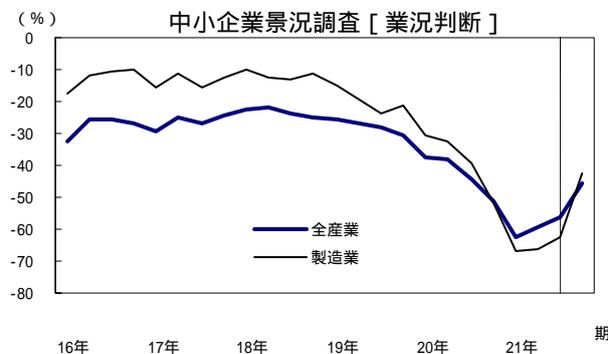
#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年12月は予測。  
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。  
中部地区。

#### 景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

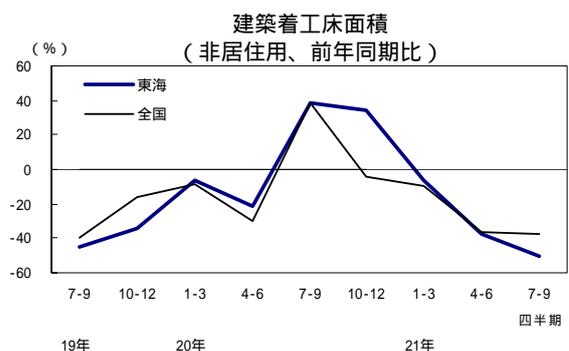
「マンション、一戸建ての販売は依然として厳しい状態にある。客の動きは出てきているものの、値引き要請が大きいため、利益は大幅に減少している(建設業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

#### 企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

|      | (前年度比、%) |               |
|------|----------|---------------|
|      | 20年度実績   | 21年度概         |
| 全産業  | 6.7      | 23.1 [ 22.9 ] |
| 製造業  | 10.8     | 41.4 [ 40.8 ] |
| 非製造業 | 0.3      | 3.9 [ 3.0 ]   |

(備考)[ ]は前回(6月)調査結果。



## 2. 需要の動向

### (1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

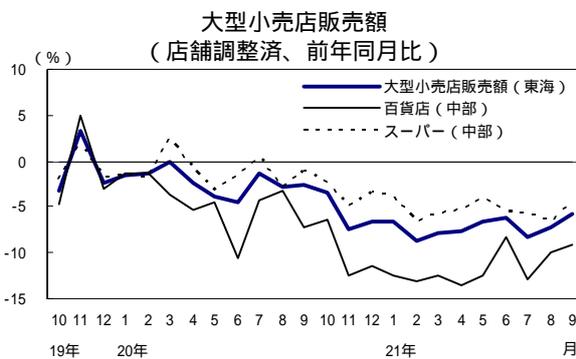
#### 大型小売店販売額

百貨店は、7月は、6月の夏物セールの前倒しによる反動減や天候不順により、飲食料品、身の回り品を中心に前年比低下幅が拡大した。8月は、衣料品、飲食料品ともに不調が持続し、引き続き前年を下回った。9月は、物産展の好調により、飲食料品の前年比低下幅が縮小したものの、衣料品、身の回り品が不調で前年を下回った。日本百貨店協会によると、名古屋市内の10月の売上高は、前年同月比で11.2%減となっている。

スーパーは、9月後半の気温低下により、衣料品の前年比低下幅が縮小したものの、低価格のプライベート・ブランド商品の強化等により、飲食料品を中心に客単価の下落が進行し、全体では前年を下回った。

#### 景気ウォッチャー調査(9月)[家計動向関連(現状)]

「減税と購入補助金のおかげで、新車の販売台数は増えている。ただし、前年並みの販売台数を確保する程度である。販売の中心は軽自動車やコンパクトカーであり、値引き要求も厳しいため、思うような収益確保には至っていない。また、工場への在庫量や中古車の販売台数も減ってきている(乗用車販売店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



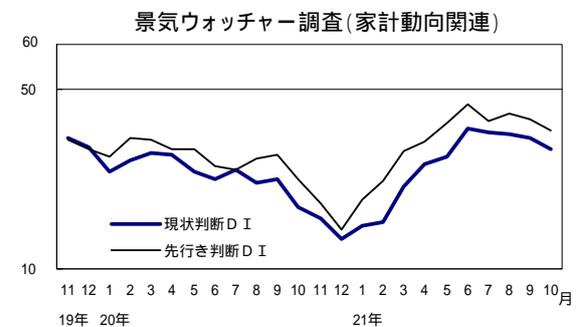
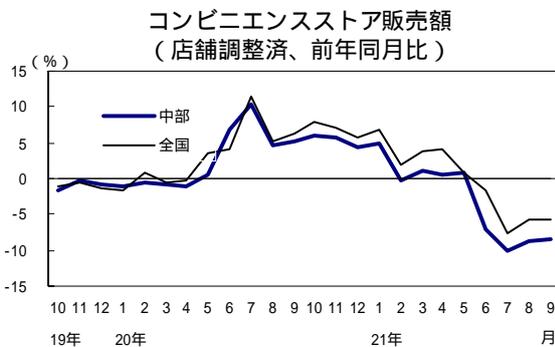
|          | 20年10-12月 | 21年1-3月 | 4-6月 | 7-9月 |
|----------|-----------|---------|------|------|
| 大型小売店    | 5.9       | 7.5     | 6.8  | 7.2  |
| 百貨店      | 10.4      | 12.6    | 11.4 | 11.0 |
| スーパー     | 3.6       | 5.2     | 5.0  | 5.6  |
| 乗用車      | 14.8      | 24.2    | 19.5 | 1.2  |
| 景気ウォッチャー | 20.5      | 22.8    | 36.5 | 39.9 |

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

百貨店、スーパーは中部地区。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。

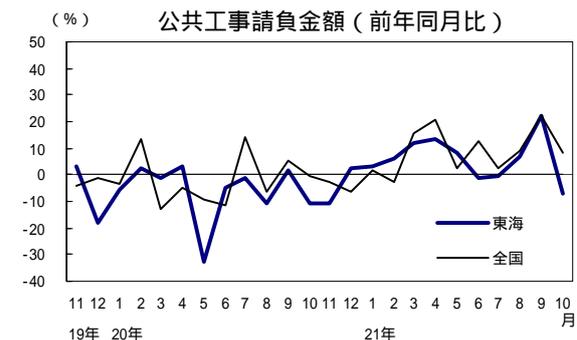
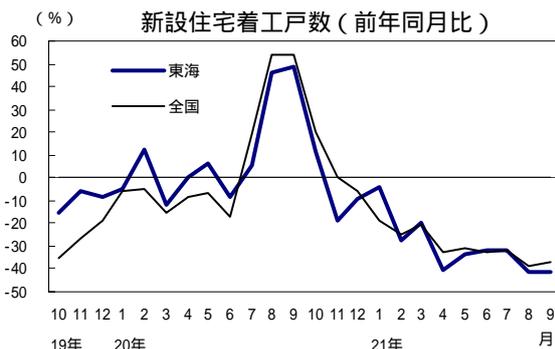
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



### (2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回り、大幅に減少している。

### (3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。

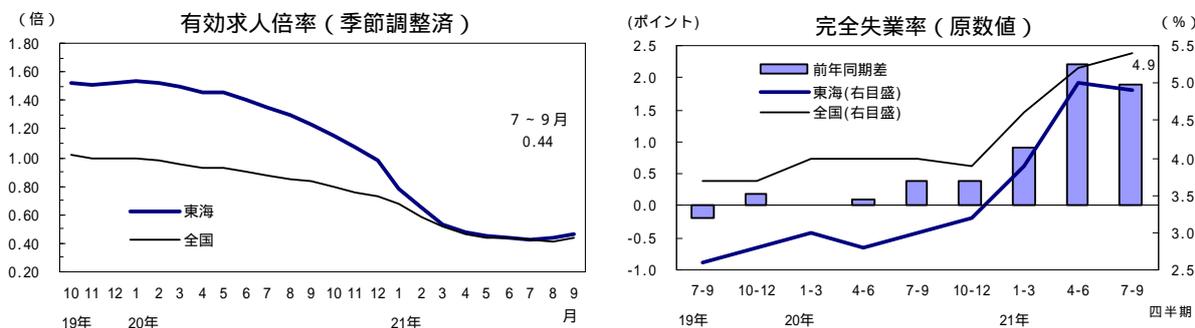


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月)[雇用関連(現状)]

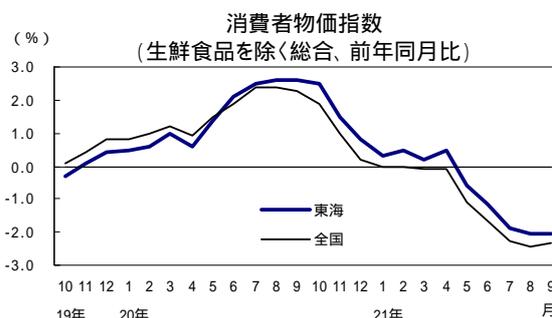
「自動車関連では、期間工や製造系派遣で再雇用されるケースが出てきており、若干明るい兆しが見えているものの、新規雇用の動きは極めて厳しい。求人数が非常に少なく、職業紹介窓口では、求職者でかなり混雑している(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加しているものの、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

#### 企業倒産

|       | (件、億円、%)  |         |       |      |        |
|-------|-----------|---------|-------|------|--------|
|       | 20年10-12月 | 21年1-3月 | 4-6月  | 7-9月 | 21年10月 |
| 倒産件数  | 343       | 414     | 328   | 361  | 139    |
| (前年比) | 3.3       | 20.7    | 1.2   | 4.6  | 10.3   |
| 負債総額  | 1,367     | 2,310   | 1,547 | 717  | 333    |
| (前年比) | 82.2      | 128.3   | 13.8  | 3.7  | 15.8   |



景気ウォッチャー調査 (10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・安値による受注合戦が続いており、受注すべきか否かの判断に迷う。仕事量が少ないため、取り合いになってしまう(金属製品製造業)。

<先行き>

・必要で中止の予定がない公共事業まで補助金の支給時期が不透明で遅れており、売上が大きくずれ込みそうな案件も目立つ(電気機械器具製造業)。

